

学校だより

東 雲



(しのめ)

八戸市立東中学校

Tel 31-3170 31-3180

Fax 32-1130

※ 東中学校の教育情報は、ホームページやブログでも公開しておりますので、是非ご覧ください。

http://hachinohe.ed.jp/higasi_j/

◇◇ 共育 90 ◇◇

(「共育」:皆さんと「共に育む」の意味です。)

教育講演会 「地球のステージ4」



10月30日(日)、本校体育館において、桑山紀彦氏による教育講演会「地球のステージ4」を開催しました。4年連続となる桑山さんの歌と語りと映像によるステージでしたが、今回はご自身の活動拠点である名取市の被災にもふれながら一民間人の医師として世界とどうつながり、生きることについてどう考えているのかを伝えていただきました。

昨年までも、感動のステージだったのですが、

今年は3月11日の東日本大震災を受けてのもので、生徒達もよりいっそう身近に感じながらのものとなりました。保護者の方々にも、できるだけご覧いただきたいということで、昨年から日曜日に実施しているのですが、それぞれご都合のある中で30名ほどのご来場者でした。当日アップされた桑山さんのブログのコメントと生徒の感想から、その様子を感じ取っていたければ幸いです。



地球のステージ フログ (<http://blog.e-stageone.org/> 2011.10.30より抜粋)

今日は朝から八戸東中学校のステージでした。

こうして日曜日がステージの週、もうずっと続いていますがやはり全国からの皆さんの期待に応えたいと思っているので、苦になりません。

東中学校は今年4年目。本当に素直で優しい生徒さんたち。挨拶もしっかりできるし折り目が正しい彼らを見ていると、中学校時代に学ぶべき規律や規範は、決して「させられる」ものではなく相手を思いやり気持ちよく接して頂くために大切なものであることがわかってきます。一部の中学校の生徒さんたちが自由をはき違え、我慢する心と力を失ってむき出しの暴力に浸ってしまっている現実との違いに愕然とします。どこで生まれ、どんな環境で育ったかによって子どもはずいぶん変わってしまう。その意味においては家庭の教育力に期待されるころは大きいと思いました。(以下省略)

桑山さんの「地球のステージ4」を聞いて、震災というものの実態を知りました。

僕の家は、海からかなり遠く、津波を実感していません。さらに、3月11日の大震災は、停電は二日で、運よく買い物に行き多数の品を買った日だったので、食にはあまり困りませんでした。しかし、食器は多く割れました。2回目の地震の日は、家族でテレビを見ていたところ、地震速報がテレビに表示され、その直後に大きく揺れました。電灯が落ち、足に小さいガラスがさきり、痛かったことを覚えています。

桑山さんの話している震災は、こんなものよりはるかにひどい地震だったと思います。そのつらい気持ちを忘れようと、音楽会を開き、人々に喜びを与えている桑山さんの姿はとても立派だと思います。上り坂があれば下り坂がある。被災地での震災が下り坂だとすれば、サッカー大会、音楽会などは上り坂なのではないでしょうか。「ゲームセンターに行きたい」「パソコンをしたい」というようなことで困っている自分が、とても恵まれていると思いました。(1年4組 老久保諒)

今日は、桑山さんの語を聞きました。初めに、ジャワ島の話を知りました。ジャワ島は、一年程前に、震災を受けたと聞いて、今の日本に似ていると思いました。だから僕はいつも以上に共感しながら話を聞くことができました。震災後に桑山さんがジャワ島を訪れたときの子供達は、明るく元気でした。僕もそんな強さを持ちたいと思いました。一番心に残ったのは、ガザ地区の紛争のことです。なかでも、ガザ地区の子どもの印象が強かったです。子どもは紛争で肉親を失い、心に大きな傷を負っていました。それを、平和な日本に住む桑山さんが行き、音楽会を開くという行為に怒る気持ちもわかります。しかし、最後には、桑山さんの思いが伝わったようなので良かったです。その後の「人生には上り坂と同じ数下り坂がある」という言葉も心に残りました。世界中でたくさんの命が消えていくなかで、僕たちはとても幸せだと思います。だからこそ、僕たちが命を大切にすることが重要だと思います。

(2年2組 伊藤克之)

私は今日の講演を聴いて、どんな困難や苦しいことがあってもあきらめないで続けたり、前向きにがんばることで、きっと希望が見えてくるということを学びました。大地震のあった島や、今でも紛争の被害に苦しんでいる都市の子どもたちと、音楽会をすることで前向きな気持ちを取り戻そうとしているのがすごいと思いました。自分たちの苦しみの象徴ともいえる「廃材」から楽器を作るというのはとても悲しいことだったかもしれないけど、自分たちの力で元気を出していこうとしていたり、未来を作っていこうという姿勢にとっても感動しました。また、震災のことを歌にしたものを聴いたとき、胸がしめつけられる思いでした。どうしてこんなに辛いはずなのに、明るく歌うことができるんだろうと思いました。たぶん、それは地震があったことに負けたくない、ここで立ち止まっては行けないという強い気持ちがあったからだと思います。そして、元のように元気で明るい生活を早く取り戻したいという気持ちがあったからだと思います。

また、戦争を体験したことのない私たちは、実際に戦争の被害を受けている人たちの苦しみを体感することはできないけど、どんな苦しみか、どのくらいの辛さかは考えることができるという言葉に、とても納得しました。確かに、体験したことのない苦しみを分かち合うことはできないけど、その人の気持ちになって、思いやることはできると思います。今日、聴いた話の中には、共通するものがありました。それは「あきらめないこと」です。どんなことでも、あきらめたらそれで終わりだけど、続けていれば何か見つかるということを感じました。自分たちも地震を体験し、まわりでは失ったものも多かったけど、その分、人と人のつながりや出会いの素晴らしさを再確認できたのではないかと思います。今でも、復興に向けてたくさんの方ががんばっていることを、私たちは少しでも意識し続けなければいけないし、その人たちのためにも「つながり」を大切にしていかなければならないと思います。震災で失ったものを、失ったままにしないために、もっと世界に目を向けて生活していきたいです。(3年2組 工藤史織)